

狭山が発祥の地

童句

特選

母が剥く 梨の惑星 自転する

こむろたかし

春光や もこもこ土が 動き出す

原 千寿

動き出す リズムさわやか

鼓笛隊 森 京子

僕の番 しやつくり止まる

肝だめし 野辺千代

デパートに 行って観察

カブト虫 寒河江美江子

※童句は、土家由岐雄氏（中央）が創始し、全国に広まりました。大人が童心に返って子供の生活や感情を詠う俳句のことです。今月は、5月5日（こどもの日）に智光山公園で行われた第11回童句まつりに、全国から寄せられた作品の中から選ばれた特選5句を掲載します

AET CORNER



Joe Palcher(AET)

This month (May) my sister came to Japan to visit me. My sister's name is Jennifer. She is 27 years old and lives in the State of North Carolina, which is on the east coast of the US. My sister is a very good writer. She wants to move to Washington, DC and become an editor of a magazine or newspaper.

I took my sister sight-seeing in Tokyo and Kyoto. I took her to the Tokyo Tocho. However, the weather was so bad we could not see much from the top of the tower. I also took her to Asakusa to buy souvenirs. I took her to Kyoto also to show her examples of a more traditional Japan. We went to the Kinkakuji, the Kyoto Imperial Palace, and Nanzenji. We also went near the Kiyomizudera to do some more souvenir shopping. My homestay mother, from when I studied at Kansai Gaidai, let us experience a tea ceremony and taught us both how to make ousu tea. My sister enjoyed this the most. I enjoyed seeing my sister, and I look forward to having my mother and father visit me here in the future.



池原 昭治の

さやまの糸金本

26



弁天さまの雨もり

昔のおはなしです。下奥富に弁天さまを祀る小さな神社がありました。その近くに、大工しごとをなりわいとするいっつあんという正直な男がすんでいまして、日ごろから弁天さまをだいにして、よくお参りにいっておりました。

ちようど梅雨の季節にはいり毎日、うつとおしい雨が降りつづきました。そんなある夜のことでした。島田（女性の髪型で島田まげという）を結ったきれいな女の人がいっつあんの夢枕にあらわれまして、「いっつあんよ

この弁天さま、今はなくなりましてが、「弁天通り」という地名だけが残っております。

弁天さまの屋根がこわれ、雨もりがひどくてこまっておる、どうかなおしておくれ」といったそうな、翌朝はやく弁天さまのところへいってみますと、女の人のいったとおりでした。ゆうべのは弁天さまの化身だつたのかと念をいれて屋根を修繕いたしました。その後、いっつあんの家は弁天さまをだいにしたおかげで、増々栄えて幸せにくらしたということです。

この広報紙はリサイクル推進のため古紙配合率80%の再生紙を使用しています

お・茶・香・る・ま・ち

SAYAMA CITY
さやま

[狭山市広報]

VOL.503

◆発行日／平成9年6月10日（毎月10・25日発行）

◆編集・発行／狭山市役所企画財政部秘書広報課

〒350-13 埼玉県狭山市入間川1-23-5

TEL.0429-53-1111(内線386)

FAX.0429-54-6262(行政資料室)

テレホンガイドさやま ☎0120-460-380